



本当に大切なことを求めて

青年海外協力隊 幼児教育隊員
2004年3月 短大幼児教育学卒業
浪野 美奈さん

私は今、中東のイエメンという国で青年海外協力隊、幼児教育隊員として活動をしています。短大を卒業して3年3ヵ月、保育者として働きながら、子どもの育ちにとって「本当に大切なことは何だろう」と考えてきました。機会を得て、今、夢でもあった国際協力の道に進み、専門知識を学んでいない先生たちと一緒に働きながら、大切なこと、保育者として求められることを探しています。

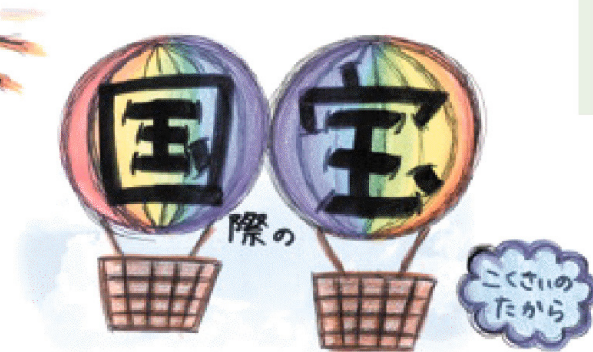
私の活動先はアラビヤ幼稚園で、さらに首都サナアの公立幼稚園にも巡回指導しています。活動当初、怒るだけで何もしない保育者にどう指導しようかと悩みました。人から指示されること、指導されることを嫌うイエメン文化。そのため私は、現地協力の興味を引きつけ、相手から様々な質問を出せる環境をつくる努力をしています。

すると、私のまねをして子どもと遊ぶ先生が一人、また一人と増えていき、教材づくりをする先生が一人、また一人と増え始め、幼稚園に子どもたちと先生の笑顔が広がりました。

私はこちらに来てから1年と8ヵ月になります。子どもたちの笑顔と健やかな育ちのためには、笑顔で、子どもたちと心から楽しく遊べる保育者が求められています。一緒に遊びながらさまざまな願いを伝えていくことが、保育者の役割なのではないかと、今改めて気づき始めました。

私の任務はあと4ヵ月です。私のここでの活動が、「笑顔いっぱい」のイエメンの幼児教育として引き継がれるよう、現地保育者のために教本を作成し、イエメンに残してきたと思っています。

帰国後はさらに学びを重ね、支援の経験を活かし、見つけた大切なことを、保育現場で日本の子どもたちの豊かな育ちに役立てたいと思っています。



デザイン(廣)宮内 枝里子 2004年3月 短大幼児教育学卒業



シンガーソングライターとして

1998年3月
人文・社会学部 社会学科卒業
工津 美保子さん



スポーツ人間学部が誕生しました！

スポーツ人間学部 スポーツ指導学科教授
付属幼稚園長
蔵満 保幸先生

本年4月、スポーツや健康に対する社会の要請に応え、地域スポーツの振興と個人の健康づくりに貢献できる人材の育成を目指して「スポーツ人間学部」が開設されました。

スポーツビジネス学科では、スポーツにかかわるマネジメントやビジネスの知識、スポーツの現場で活きるインストラクターなどの資格を身につけるとともに、優れた人間性と優しく温かな心を持ち、スポーツを通じた地域振興に貢献できる人材の育成を目指しています。

スポーツ指導学科では、生涯スポーツの指導や中学校保健体育科教育を通じて、北海道に暮らす人の健康・生活・スポーツの総合的な発展を担う、スポーツ指導者の育成を目標とします。

北海道日本ハムファイターズとの産学連携による共同研究や、スポーツビジネスカフェの運営、清田区との健康づくり実践など「全てのスポーツシーンがキャンパス」をモットーに教員、学生一丸となって新しい伝統づくりに励んでいます。

私自身は、付属幼稚園の園長も兼務しており、日中は幼児に遊んでもらい、午後は学生に教鞭をとる日々を過ごしています。



努力の末に何かを掴む

2007年3月
人文学部 国際文化学科卒業
丸山 紘志さん

大学11期、人文学部国際文化科学博物館マネジメントコースを卒業し、現在(株)昭和コーポレーションに勤務されています。大学時代アメリカンフットボール部で心身共に鍛錬を重ね、現在は夢でもあった日本社会人リーグ最高峰のXリーグ「明治安田パイレーツ」のディフェンスバックとして活躍されています。

平日は夜遅くまで営業の仕事をしていますが、アメフトから学んだ「辛い思いをしても努力を惜しまず、最後には何かを掴む」という精神は、現在の仕事にも活かされていると話されています。また、自主トレを欠かさず土・日の練習や試合に臨んでいるそうです。

今は東京で仕事を覚え、いつの日か札幌の地へ戻りたいと話す丸山さん。その時には大学でアメフトの指導をし、一人でも多くの人にアメフトを知ってもらいたいという夢の実現に向けて頑張っています。

また、苦勞をかけたお母様への感謝の言葉を口にされる、心優しい青年です。

(取材：榊本朋子／短大4期)

大学2期、人文・社会学部社会学科を卒業し、医療関係の仕事の傍ら「オリジナル・フラヴァ」というグループで音楽活動をされています。昨年開催された東京支部会において、その歌声を披露してくださいました。

在学中は軽音楽部(当初の部員は5名だったそう)に所属し、他大学の友人とバンドを結成し活動していました。大学への進学は音楽活動を続けるためのご両親との交換条件だったとか。

就職後も音楽活動を続けていましたが、2005年7月、決意を胸に上京。ご両親も背中を押してくれたそうです。その後すぐにチャンス到来、CDを出すことになりました。サッポロドラッグストアのCMソングも彼女が歌っているそうです。

自分の思いで作った「自分の曲」も、一度世の中に出了らそれは「聴いた人の物」。長くシンガーソングライターとして活動し、年齢を重ねながらその時にしか歌えない歌を、自分の為に、そしてどこかの誰かの為に、歌い続けていきたいと話されていました。

今後の夢は、「札幌国際大学の新しい体育館で歌うこと」そして、「もう一度大学で何か新しいことを学ぶこと」だそうです。また、お話の中で幸せな報告もありました。来永くお幸せに！

(取材：榊本朋子／短大4期)

「国際文化のコーナー」では、活躍している卒業生を募集しています。卒業年度・学科・氏名、活動内容を各2記入のうえ、下記へ郵送してください。
〒040-8602 札幌市清田区清田4番11丁目4番1号 札幌国際大学内 幹事会

新役員ご紹介

6月27日の代表幹事会で承認されました。幹事会新役員です。



会長
榊本 朋子
(短大4期)



副会長
永井 智子
(短大3期)



副会長
金子 篤史
(大7期)



会計
森田 美奈
(短大23期)



会計
中 正彦
(短大27期)



広報
若生 幸実
(大7期)



広報
松元 幸祐
(大11期)



会計監査
久原 りか
(短大16期)



会計監査
針塚 寿
(短大3期)



今期より新設
書記
宮内 枝里子
(短大34期)



以上のメンバーで、これから幹事会活動を盛り上げていきたいと思います。

札幌国際大学同窓会奨学金

幹事会では、同窓生として将来社会に人へれる学生に、奨学金を贈呈しています。これは学生が経済的理由により、その後の学業の継続が困難となった場合の一助として利用していただくものです。
今年度は大学・短大、各1名に支給されました。

平成20年度 同窓会活動報告

4月3日 札幌国際大学・同短期大学部入式出席

4月12日 役員会(同窓会室)

5月12日 アマコ株式会社とキヤリア支援についての打合せ
(大学に於いて)

5月15日 役員会
(経済センタービル内SUサテライトキャンパス)

6月14日 第一回 東京支部会出席
(ホテルオークラ東京)

6月28日 役員会(同窓会室)

10月4日 役員会(同窓会室)

11月29日 役員会(同窓会室)

1月17日 役員会(同窓会室)

2月4日 三役会(同窓会室)

2月14日 新幹生との顔合わせ会

3月7日 役員会

学校記述方式用作業

3月15日 札幌国際大学・同短期大学部学位記述方式出席

会計報告

平成20年度会計収支明細表

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
総収入	48,169,980	(1)事務費	6,135,964
入会金	10,020,000	振替費	342,450
同窓会収入	300,500	事務用品費	3,608,528
雑収入	68,200	旅行費	2,331,575
その他収入	42,600	交通費	792,520
合 計	58,621,139	銀行手数料	40,931
		(2)会議費	3,691,366
		行事費	2,493,402
		修学費用負担費	197,964
貸倒対照表		(3)事業費	6,665,828
預金	39,027,951	会費振替費	320,320
		修習費	166,181
合 計	39,027,951	給付金	247,467
負債の部		卒業記念費	1,038,300
借入金		修学金	500,000
去年年度繰入金	39,027,951	学生支援金	3,500,000
合 計	39,027,951	行政会費	428,400
		施設整備費	3,460,000
		(4)雑費	100,000
		去年年度繰入金	39,027,951
		合計	58,621,139

(単位:円)



短期大学部40周年に

前札幌国際大学短期大学部 幼児教育保育学科教授
堀内 拘夫 先生

札幌国際大学短期大学部は今年4月、開学40周年を迎えました。心からお祝い申し上げます。私は開学2年目に、今日の発展を築かれた現在の理事長・学園長 和田内崇弘先生よりお引きを受け、気がつけばかくも長く、しかし短かった39年間を勤務させていただき、今年3月に定年退職しました。

開学当初は時間がゆつたり流れ、まばらな住宅の清田団地に鳴る大学のチャイムを聞き、雲雀のさえずりで通勤した記憶があります。

すぐに学生数も増え、毎年に校舎も新築され道内有数の大学になりました。

私が所属した幼児教育学科は、活気あるスタッフと学生により今では全道の保育現場から「国際なら」という信頼を受けていることは喜びの一つです。

離れて改めて札幌国際大学の良さがわかります。

本学の経営力、組織力、教職員の教育力は高いと思います。大学をめぐる社会情勢はさらに厳しいと予想されますが、この総合力と積み上げた歴史で解決していくものと信じております。

たくさんの方々のお世話に改めて感謝申し上げ、この先貴学発展のささやかな力になれたらと願っています。